

第 10 回 『夏休みに考古学者になろう！』

—発掘体験・出土品整理体験—

青森県埋蔵文化財調査センターの教育普及活動の一つである『夏休みに考古学者になろう！』を平成 23 年 7 月 27 日(水)・28 日(木)の両日で実施しました。

一日目は西目屋村の川原平(1)遺跡で『発掘体験』を、二日目は青森市の県埋蔵文化財調査センターで『出土品整理体験』を行い、参加者の皆さんはそれぞれ楽しく考古学について体験されました。

【一日目】—発掘体験—

当日は天気が心配されましたが、雨に降られることもなく、間近に白神山地を望みながらの開催となりました。この日は 17 名の方が参加し、受付開始時間前から皆さんが集まり、関心の高さが感じられました。中には遠く神奈川から参加された方もいました。集合場所となったプレハブには、川原平(1)遺跡から出土した土器片や石器などが展示され、参加者が手に取って見ていました。

所長から、「今日の発掘体験と明日の出土品整理体験を存分に楽しんでください。」との挨拶の後、発掘調査担当者から遺跡の概要と、縄文時代の暮らしについて説明がありました。



所長挨拶



担当者からの説明

いよいよ外に出て、発掘調査現場での体験が始まり、まず川原平(1)遺跡の発掘調査現場を見学しました。発掘担当者から、縄文時代後期～晩期（今から約 3,000～4,000 年くらい前）の住居跡が見つかっていて、炉や柱穴があったこと、調査区西端の 1 棟は 2 人分くらいの小さな住居跡であったとの説明があると、参加者は「以外と狭いなあ」、「どういう建

物だったのだろう」などと言い、興味深そうに住居跡を見つめていました。続いて、土の表面の色から遺構のある場所の見分け方、縄文時代の住居跡の中央にある石囲炉などを興味深く見ていました。



調査が終了した竪穴住居跡



遺物の出土状況

この後、発掘調査の進め方と道具の使い方などの説明が行われ、班分けとともに発掘調査が開始されました。一輪車に道具を積んで、4m四方に仕切られた調査区（グリッド）に入りました。移植ベラを使いながら少しずつ掘り下げるなかなか難しい作業ですが、土器片が見つかった、「オー、出てきたー！」と歓声をあげる子供もいました。しかし、見つけてしまうとやはり興奮してしまうのか、思わず周辺だけをガツガツ掘ってしまい、発掘担当者から「一カ所だけ深く掘らないんだよ。」と言われ、残念そうな顔をしていましたが、発掘調査の難しさと楽しさを堪能していたようです。はじめての経験の方がほとんどで

したが、担当者から掘り方など教わりながら進められました。



担当者から方法を教わりながらの発掘調査



親子での作業風景



遺物の取り上げ作業



作業風景



竹べらや小ぼうきを使つての作業

当日は蒸し暑かったため、時々休憩をはさみながら、発掘作業のあい間には光波トランシットやレベルなどの器材を用いて測量作業の体験も行いました。光波トランシットでは、ミラーの水平を安定できず、緊張気味に作業するお子さんもいました。しかし、ノートパソコンにすぐに測量した地点のデータが表示されると「すげー！どんなしくみになっているの？」と、急に元気に質問をするお子さんもいました。また、レベルを使った作業では、レベルをのぞき込みながら、「バカ棒」（深さをなど測るために使われる、ものさし）の目盛りを読み、遺物の出土地点の高さを調べました。



ミラーを持って測量



パソコンに送られたデータを確認



レベルを使った作業

測量が終わった後は、発掘体験で掘り上げた遺物の観察です。土器や石器などをスケッチしました。土器の文様をきれいに表現している方、石器の稜線まで丁寧に観察し、黙々とスケッチをしている方もいました。やはり自分たちの手で掘り出した遺物には愛着があるようでした。



遺物のスケッチ



後片付け

一通りの作業を終え、蒸し暑い中でしたが発掘体験は、無事に終了しました。

【二日目】－出土品整理体験－

出土品整理体験には18名の方が参加しました。まず、担当者から青森県埋蔵文化財調査センターの仕事についての説明があり、現場で出土した遺物が、どのような順序で整理されて最後に報告書という形になるまでを、センターの施設を見学しながら、各整理の作業を実際に見てまわりました。

はじめは本館にある遺物収蔵庫からの見学です。センターでは、段ボール箱で年間約800～1,200箱の遺物が出土し、整理作業が終了した遺物は棚に並べられいつでも取り出せるよう、保管していることなどの説明がありました。参加者は棚の遺物をみて、その量に驚いているようでした。



収蔵庫の見学



注記の体験

注記室では、パソコンに自分で入力した名前が、土器プレートにプリントされる速さに驚いていました。X線室では、土偶の下部から中心部に向けて管のような穴が開いているX線写真を見ながら、外からは見えない部分も調べることもあるんだとの説明にうなづいていました。保存処理室では、出土した木製品が腐らないようにするための機械を紹介しました。真空凍結乾燥機は、いわゆるフリーズドライ食品と同様の処理をしているとの説明があると、参加者はどのような原理になっているのか、不思議そうな顔をしながら中をのぞき込んだりしていました。また、保存処理が終わった平安時代の箸をみて、現在と同じ道具を約1,000年前にも使っていたことに驚いていた様子でした。



整理室の見学



保存処理室の見学

水洗い室では、土器の水洗い体験です。はじめは遺物を片手に、少しずつブラシを動かしていましたが、泥で覆われた土器片の文様がだんだんと鮮明に見えてくると、「あ！模様が浮き出てきた」、「さっきと違う色の土器片だ」などの声が聞かれてきました。ブラシを動かす手が慎重ながらも早くなっていき、見守る担当者も「上手だなあ」と感心していました。洗い終わった土器片をじっくり観察している方、文様の付け方や土器の作り方を質問している方など、参加者と担当者間で会話が弾みました。

新館では、テレビ実測機の体験を行いました。はじめはテレビ画面を見ながらペンを動かすコツがうまくつかめなかった参加者も、あっという間に慣れて、遺物の輪郭を描いていました。



土器の水洗い



テレビ実測

その後、収蔵展示室で遺物を見学しました。土層のはぎ取りについて担当者から説明があった後、参加者からは「動物の骨がある」、「どうやってはぎ取るの?」、「いつの時代の地層なのですか?」など、次々と担当者に質問していました。また、室内の土器を手に取り、感触を確かめたり内部や底部をじっくり見るなど、興味をもって接していました。



土層断面のはぎ取りに集中



収蔵展示室内の見学

午後の部は、土器の接合と土器の拓本とりの体験です。土器の接合作業は、パズルのような接合作業のコツがわからない方が多かったようで、担当者が土器片の文様や色、形や厚さなどから、大体どこの部分のパーツなのか、ヒントを教えていました。最初のうちは親子で仲良く会話しながら作業をしていました。しばらくして夢中になったのか表情が変わり、かなり真剣に接合をしている様子がみられました。子どもからは「お父さん、ちょっとココを持って!」、大人からは「早くテープをちぎりなさい。すぐにくっつけるから!」などと親子の連係プレーで土器の復元をしていた方もいました。また、きれいに接合し終わった親子は「やっと出来た〜」と、喜びの笑みを浮かべて写真を撮っている人もいました。



土器の接合開始



接合する土器片を探しています

続いて、土器の拓本とり体験で、拓本作業は発掘調査報告書に掲載する土器片の文様を写し取る目的があるとの説明を受けた後、担当者からお手本を学びました。和紙を土器に被せ、水をしみこませた脱脂綿で土器と紙を密着させます。しかし、水を付けすぎて紙が破けたり、土器に貼り付けた紙から気泡が上手くとれなかったりなど、苦戦した親子もいました。コツをつかんだ後は、墨（黒色）だけでなく、赤・青・緑などの色をつけて、きれいな拓本を完成させ、整理体験の記念品となりました。



拓本の説明



拓本作業



カラー拓本にも挑戦



次長挨拶

最後の閉会式で、当センターの次長から「この2日間の体験で得た喜びや楽しさを忘れずに、是非未来の考古学者を目指してほしいです。」と、挨拶がありました。

今後も参加していただいた皆様に夏休み中の体験として、よりよい思い出ができるような発掘体験・出土品整理体験を行っていきたいと思っております。

〈発掘体験と出土品整理体験の感想文〉

—発掘体験—

・今日、初めて遺跡発掘をやって大きな土器や石棒が出てきたのでうれしかったです。石棒は、とてもつやつやしていました。よく、3,300年前の遺物がこんなにきれいに埋まっているなあと思いました。昼食を食べた後に発掘をやってると、大きなコップみたいな土器がさかさまに埋まっていた。掘り出してみると、周りからもぞくぞくと出てきてびっくりしました。測量をやってみて、とても面白い機械だなと思いました。高さを測るときに、合わせるのが難しかったです。スケッチをやってみると、上手に描けました。明日はつなげる作業なので、頑張りたいです。今日はとてもいい一日でした。

(小学生)

・今日、初めて発掘体験をして、予想をはるかに超えるくらい面白く、時間もすぐに終わりました。遺物を掘り当てたときのうれしさは、今でもわかります。今日は、本当にありがとうございます。明日も来るのでいっぱい教えてください。

(小学生)

・今日は初めての発掘体験へ娘と参加させて頂きました。発掘する場所が、ダムに沈んでしまう事や、元は田んぼだった事を聞くとなおさら感慨深いものがありました。発掘された遺物はおおよそ3,000年前の現在の私たちにつながる人類なのだと感じる事ができ、子供にも、そうした事を通じて、様々なものへの興味につながればと願っています。

(保護者)

—出土品整理体験—

- ・水洗いをした時、いっぱい模様付きがあったので嬉しかったです。他にも、すぐに文字を付けてしまう機械もあったので、すごいなあと思いました。夏休みの作文でこの二日間のことを書こうと思います。 (小学生)
- ・今日1日は楽しかったけど、これを毎日やると考えると、結構大変な事だと思いました。特に難しかったのは「接合」でした。これもとても楽しかったけど、大変でした。「水洗い」も、すみなのか土なのか、わからなくて難しかったです。注記では、普通できない体験ができて良かったです。今日1日とても楽しかったです。 (中学生)
- ・水洗いでは、土器の洗浄に思いの他気を使い大変でした。毎月毎日洗っている人は大変だと思います。接合はパズルのようで楽しかったが本来は形になるかならないかの接合をしいるので楽しいよりは苦しいのかなと感じました。こうした人々の力で一冊の本が出来ると思うと本の重みを感じます。 (保護者)